

社会民主主義 フォーラム

全国 通信

No.75

2026年
5月20日

〒102-0083

東京都千代田区麹町1-6-9

DIK麹町ビル704号室

TEL: 03-6272-8135

FAX: 03-6272-8136

Mail: forum-cho@iaa.itkeeper.ne.jp

第6回全国総会開く フォーラムの力で地域に党の組織と運動を

4月11日、都内で社会民主主義フォーラム（以下、フォーラム）第6回総会を開き、オンラインを含め、18県から61人が参加しました。新党・中道改革連合の突然の結成といった状況で闘われた総選挙、各地のフォーラムが苦悩を抱えながら奮闘してきたことが報告されました。立憲民主党と中道改革連合、公明党との関係が

今後、どのように推移するのかは依然として不透明な状態が続いていますが、地域に党の運動と組織をつくり、根付かせていくためにフォーラムが力を発揮していくことを確認しました。

今号では、総会の活動報告・活動計画の議論で出された10県・11人からの意見を掲載いたします（編集責任・事務局）。

改憲の動き止めるために全力

代表あいさつ 吉田忠智

1月23日、突然、衆議院が解散され、奇襲的な総選挙が行われた。結果、自民党が3分の2以上の議席を獲得し、フォーラムの仲間である吉川さん、山さん、市来さんの議席を失うこととなった。



国会では2月23日から予算案の審議が始まり、衆議院では与党が数にものを言わせ、短時間の審議で強硬に採決、可決した。参議院は野党が多数なので60時間近くの審議時間を確保したが、成立に至った。

国家情報局設置法案、スパイ防止法案、国旗損壊罪法案、加えて殺傷能力を伴う武器輸出を可能とするような危険な議論が進められている。合わせて、憲法審査会では、衆議院で緊急事態条項の創設に向け、論点整理まで進んでいる。国会議員の任期延長改憲案というもののだが、参議院では、私が野党の筆頭幹事を務めているが、立法事実を伴わない改憲案については、自民党の筆頭理事も条文起草委員会を提案するつもりはないと慎重な姿勢だ。予断を許さない状況だ

が、何とか改憲発議を止めるよう頑張っていく。

フォーラムは19都県に存在しているが、社会民主主義的な政策、理念を政治に生かそうと、この5年2ヵ月活動してきた。限られた時間だが、この間の努力について忌憚なく議論していただきたい。

統一自治体選挙の体制づくりを

代表あいさつ 羽田圭二

今回の総選挙、中道改革連合や立憲民主党が若者、現役世代の支持を得られていないことが再び、明らかになった。

さらに左派・リベラルと言われる政党への支持も極めて低かった。こうした中、どのような政策を地方議会で打ち出していくかが問われている。

来年の統一自治体選挙、立憲民主党で闘う方向になると思うが、中道改革連合や公明党との関係は地域によって温度差がある。そんな中、慶応大学の井手英策教授を講師に招き、ベーシックサービス推進議員連盟が立ち上げられたが、公明党の議員も多く参加している。今後、公明党



(2)

とどのように連携していくかは別の話かもしれないが、一つのヒントになるのではないかな。

自治体議員団は、研修会と総会の日程を早急に決め、中間選挙、統一自治体選挙に向けた体制作りを急ぎたい。

平和や人権の課題を大切に

特別報告 山としひろ



富山、そして全国のフォーラムの仲間から応援をいただいたが、総選挙では高市旋風に吹き飛ばされてしまった。中道改革連合で闘うことには複雑な思いもあり、選挙後の2ヵ月間、悩むこともあった

が、平和や人権の課題、やっぱり私たちが中心になって闘わなければ、日本の政治と将来は危ういと感じている。

地域で活動していると、自民党と比べ、私たちの組織はぜい弱だと感じる。ここを克服するため、全国各地での自治体議員の中間選挙、来年の統一自治体選挙で一人でも多く、私たちの仲間を作ることが必要だ。私も精いっぱい、応援し、一緒に活動していきたい。

2025年活動報告・2026年活動計画について



①高田良徳さん(香川)

中道改革連合をどう見るか。私たちが今までやってきた運動が保証されるのかどうかだ。沖縄の課題、脱原発、安保法制反対など、立憲全体で取り組んでいなくてもフォーラムとしては取り組んできた。この活動が否定されるのであれば、中道改革連合を支持できないのでは。あ

と、立憲は組織政党として地に足をつけた運動体を作ることが必要だ。

高市政権になって多くの人にナショナリズムが植え付けられている。これらの有権者にどうアプローチしていくのかといった議論が必要だ。

②石田寛さん(秋田)

80歳になったので来年県議を引退。1972年に社会党に入党し、世の中は変遷してきたが、自分の歩みに誤りはなかったと思う。党員を置き去りにした中道改革連合の結党の過程は、論外。一方、立憲のまま闘っていたら勝っていたかどうかは別問題。いまの若い人たちに寄り添う表現、接触の仕方を考えないと、私たちへの支持は期待できない。

立憲に合流した時、日常活動はゼロだった。フォーラムがいろいろな勉強会を作り、運動を担ってきた。若い人が勉強会に参加できるよう環境作りがいま、改めて求められている。

自民党は強い。中道改革連合であれ、立憲であれ、野党第1党を強くし、自民党と対決していくことが必要だ。

③岩切達哉さん(宮崎)

中道改革連合の結党の在り方については、拙速だった、トップダウンだったとかの議論がされているが、綱領や基本政策、とりわけ、私たちが大切にしてきた反戦・反核・平和、人権の尊重といった部分について批判しづらい雰囲気がある。

自民党政治に対して大きな塊をつくるというのであれば、その性格を確固として示す綱領、基本政策をしっかりとしていく、再議論をしていくことが必要だ。

フォーラムとして、中道改革連合や立憲にも申し出ていくべきではないかと思う。

④辻隆一さん(宮城)

中道改革連合は結成の在り方に加え、政策についても、これまで取り組んできたことと違うのではないかということが課題になった。総選挙では国民民主党も候補者を擁立したことで連合宮城が中道改革連合の候補者への推薦を見送るなど、大衆的な広がりを欠いた。

宮城では、宮城県護憲平和センターが環境、脱原発、平和の課題に取り組み、フォーラムはそこを拠点に大衆運動に取り組んできた。新党の中で、そういったことが本当に取り組めるのかどうかは大きな課題だ。当面、仙台市議選、県議選で戦線をどう立て直していくかが問われている。

⑤石塚忠敬さん（福島）

中道改革連合で頑張るしかないとして始まった総選挙。これまでなら、各地区でフォーラムが関わり、様々な取り組みをしてきたが、今回はそうはならず、あっという間に終わった。これまで一生懸命取り組んできた反戦平和や脱原発、とりわけ被災地として重視してきた脱原発が、中道改革連合で方向が変わったのではないかとフォーラムの会員、有権者にも受け止められたのではないか。どういう政策で、どんな社会を目指すのか、真剣に議論しなければいけない時期にあるのではないか。

⑥五十嵐実さん（福島）

有権者の方からは「何で公明党と一緒にやるの」「中道って何なの」と率直な声が寄せられた。時間不足で政策が浸透しなかったこともあるが、国会議員数といった算術的なことから出発し、国民の生活や不満からずれていたのではないか。

福島にとっては脱原発は大変重要。いまだ復興せず、避難者は24,000人。原発に依存しない社会をめざすというが、直面している問題は再稼働で、この点、中道改革連合の政策は後退だ。加えて、安保法制での集団的自衛権行使の問題に対する認識。フォーラムとして中道改革連合や立憲にも意見を言ってもらいたい。

⑦原口幸一郎さん（東京・関東バス労組）

26春闘で私鉄総連方針に沿って、関東バス労組も賃上げ11,300円、臨時給与年5ヵ月などを要求。マスコミでも報道されたが、98.75%の支持率でストライキ権を確立して交渉に臨んだ。結果、24回にわたる交渉の末、ほぼ要求通り、ストライキ決行の4時間前に妥結した。

バス運転手の労働時間は平均よりも2割長く、賃金は2割低い。賃金、労働条件の悪化が人員不足、減便や路線廃止の要因であることを訴えてきた。ストライキ決行の報道に対し、肯定的な意見が多く寄せられたのは、自分たちのためだけではなく、社会的な取り組みであることが受け止められた結果だと考えている。

⑧石松俊雄さん（茨城）

総選挙は、もっぱらフォーラムの会員がフォーラムの組織を通じて選挙運動の指示を出し、動いたというのが現状だった。

先日、立憲の県連大会を開いたが、これまでには代議員集めに四苦八苦してきたが、地方議員の後援会とフォーラムで半々ずつを担い、100人以上が参加した。フォーラムがないと立憲の県連組織は成り立たないということ。

大会では、国会議員が代表だった総支部を解散し、地方議員を中心に各小選挙区に総支部を新たに立ち上げることになり、一般党員が党活動に関われることになった。そうするとフォーラムの存在意義、役割が改めて問われることになる。県フォーラムの総会では、いずれは中道に合流という目標を持ちながら、そのための条件作りをしていくという提起を考えている。

⑨兼古博行さん（千葉）

高市政権に対抗する大きな塊をつくるということでは県内で抵抗はなかったが、時間の問題だけでなく、どういう争点で闘うのかといった議論を深める前に選挙戦になったしまった。

選挙後に地区の代表者で集まり、中道改革連合になってどうなるかを想像しても仕方ないので、傍観せずに運動に責任を持とうということで、当面、戦争をさせない100人委員会、地域での学習会をやろうということになった。

大衆運動にフォーラムに加入していない自治体議員の方たちに参加してもらい、フォーラムに入ってもらう道筋を作っていきたい。

⑩岡崎信也さん（富山）

雪が降る中での大変な選挙だったが、結果は厳しいものになった。中道改革連合は急遽の立

(4)

ち上げで、立憲の黨員の中にも浸透しなかった。今後の在り方については、引き続き、丁寧な議論を続けていきたい。

県フォーラムの総会も近く開くが、山さんとも引き続き、一緒にやっていきたい。やはり、人権とか平和を中心に運動をしっかりとやっていくことが大事だと思う。

県フォーラムは今後、現職の労働組合の関係者を代表に据え、若い人たちを巻き込んで運動を作っていけないかと議論を進めている。

⑪森永慶治さん(福井)

新党結成の手続き、タイミングの問題には議論があるが、高市政権が安倍政治を継承し、右

傾化を強める中で野党の塊を作る発想、努力は評価できると思う。

県フォーラムは反原発福井県民会の一角を占めており、原発の再稼働やリプレースには絶対反対だ。安保法制の位置づけもいろいろ疑問はあるが、かつて村山政権の時、日米安保を維持した際にも、私たちはそれでも前に進んでいった経過を考えると、この辺りも踏まえていかなければならない課題ではないかと考えている。

もちろん多くの議論は必要だが、中道改革連合を強く大きくしていくことを考えてもいいのではないかと。その際、フォーラムはその推進役として行動するということはどうなのかという意見が多くあったことをお伝えしたい。

第6回総会の確認事項について

第6回総会では以下の事項について確認・了承を得ました。

- ①2025年活動報告および2026年活動計画
- ②規約改定について…総会で規約の見直しを行う予定でしたが、立憲・中道改革連合・公明党の関係が不透明な中、改定は見送りしました。
- ③2025年決算
- ④会計監査報告
- ⑤2026年予算
- ⑥届出政治団体の扱いについて…国会議員関係政治団体への移行手続きは行わず、政治団体としては解散し、任意団体に移行します。中央の移行手続きは終了しました。なお、自治体議員の寄付控除ができなくなるため、自治体議員の会費の在り方について今後、検討を進めます。

◇◇次期役員体制について◇◇

- 代表： 吉田忠智(参議院議員)
羽田圭二(世田谷区議)
- 代表代行： 吉川元(大分)
- 副代表： 山登志浩(富山)
- 事務局長： 伊藤剛(東京)
- 事務局次長： 田中実(自治体政策研究会)
- 運営委員： 櫻田憂子(秋田県議)
田山英次(宮城)
阿部浩子(港区議)
守永信幸(大分県議)
中川直人(東京)
市来伴子(埼玉)
横田昌三(立憲民主党本部)
矢野敦子(立憲民主党本部)
- 会計監査： 浅田保雄(文京区議)



村山富市元総理 お別れの会を都内で開催

昨年、101歳でご逝去された村山富市元総理のお別れ会が4月20日、都内で開かれ、自社さ政権時代の元議員ら、約450人が党派を超えて参列しました。呼びかけ人には河野洋平元衆議院議長を始めとして、吉田忠智代表も名を連ね、運営にあたってはフォーラム中央の事務局も、その一端を担いました。

式辞を述べた河野元衆議院議長は、冷戦終結後の転換期に国難に立ち向かった村山さんの姿勢は「政治家の道しるべ」と称え、「あなたがだどった平和への歩み、私たちが受け継ぐ」とお別れの言葉を述べました。